



学校図書館だより

9月号

令和3年9月
柏市立中学校
柏市学校図書館指導員



二学期が始まりました。みなさんは、どのような夏休みを過ごしましたか？部活動がんばった人、勉強に力を入れた人、シリーズものや長編小説にチャレンジし読書を楽しんだ人もいたのではないのでしょうか。学校図書館は、二学期も授業や読書に利用できる本を用意して、みなさんをお待ちしています。

～秋の香り 菊の節句～



9月9日は重陽の節句。陽数（奇数）のうち、もっとも大きな数字である9が重なる日であるため「重陽（ちょうよう）」と名づけられました。菊の花が咲く時期に重なるため「菊の節句」とも言われています。この日には、長生きの効用があるとされた菊の花を觀賞したり、菊にちなんだ料理を食べたりして長生きを願います。日本には、奈良時代に園芸種の菊とともに伝わってきました。

--『再発見！くらしのなかの伝統文化5』ポプラ社



今月のおすすめ 《パラスポーツを知ろう》

『パラリンピック大事典』

和田 浩一監修 金の星社 〈780/パラ〉

パラリンピックとは、体や視覚などに障害のある人を対象にした、世界最高峰のスポーツ大会のことです。4年に1度、夏季および冬季オリンピック終了後に開催されています。もとはリハビリテーションとして始まった障害者スポーツですが、現在は競技スポーツへと発展。そんなパラリンピックの全体像がつかめる内容です。現在に至るまでの歴史、意義などが詳しく紹介されています。

『日本のパラリンピックを創った男 中村裕』

鈴木 款 著 講談社 〈289/ナカ〉

まだ「リハビリ」という言葉さえなかった昭和30年代。中村医師は、リハビリ研究者としてパラリンピック発祥の地といわれるイギリスのストーク・マンデビル病院で、車いす患者がバスケットボールをしている姿に衝撃を受けます。「スポーツは障がい者の社会復帰につながる」と考え、1964年の東京パラリンピックを成功させます。日本パラリンピックの父と呼ばれた「中村裕」の生涯が綴られています。



子規忌（糸瓜忌）



9月19日

明治時代の俳人であり歌人でもある正岡子規の命日です。俳句・短歌ともに革新を試み、俳句は高浜虚子によってホトトギス派に継承され、短歌はのちのアララギ派を生んでいます。絶筆となった3句から糸瓜忌（へちまき）と名付けられました。



『勇気ある一歩で世界が変わる！

——車いすバスケ香西宏明』

光丘 真理 著 新日本出版社 〈783/コウ〉

生まれつき両膝から先がない香西選手は、プロの車いすバスケットプレーヤーとしてドイツのチームに所属しています。小学6年生で車いすバスケと出会い、「世界で認められる選手になる」という目標を持ちます。高校卒業後はアメリカへ留学。全米大学リーグでは、2年連続シーズンMVPを獲得します。パラリンピックは、北京からの3大会に連続出場をしています。



『ライブラリーサーチ』の紹介文を一部引用しています。

◆学校図書館からお知らせ◆

夏休みに借りた本は速やかに返却しましょう。返却ボックスも利用できます。

返却期限

9月00日（〇）



